

日銀神戸 支店長の 視点

大関雄資氏



6月下旬の神戸着任から約2カ月が経過した。仕事で会いする方々から当地の印象を問われるが、こう暑いとあちこち歩き回る気にもなれず、ガード下の赤ちようちゃん以外の見聞は思いのほか深まっていない。

しかし生まれも育ちも千葉県市川市で、日銀でも東京の本店勤務が長かった筆者にとつては、関西での生活自体がたいへんに刺激的だ。

例えば関西弁。独特の抑揚が耳に心地よく、酒場でも喫茶店でも人々の話し声が極上のBGMに聞こえてくる。標準語と比べ人情味を感じるのも、気のせいではないだろう。

それからエスカレーター。駅でも商業施設でも、人々は右側に立ち左側をあける。関

東男が驚く西の「クマ」被害

東はこの逆だから、自分が先頭るときは少し緊張する。油断するといふ左側に立つてしまつので、気が抜けない。

しかし筆者に最も強烈な印象を与えたのは、当地の銘酒でも、近接する山と海が織りなす独特の風景でも、行き交う人々の洗練されたファッションでもなく、クマゼミの「爆音」だ。

関東で見かけるのはアブラゼミばかりだから、クマゼミの鳴き声には正直面食らった。しかも連中は異常に朝が早く、毎朝6時にセツトしているアラームが鳴る前から、シャアシャアシャアシャア大合唱を始める。夏バテ防止のためには安眠が不可欠だから、これには閉口した。

この天然の爆音目覚ましも、お盆過ぎからようやく下火になってきた。このまま体力を蓄え、もう少し涼しくなったら、六甲山かいわいを散策してみたい。神戸市のHPによれば、こちらには「本物」が出没するようだ。熊鈴をはじめ万全の装備で臨むことしよう。